

質問 番号	Q. 質問	A. 回答
Q1	雨水出水浸水想定区域、内水浸水想定区域とはなにか？	下水道の排水能力を上回り下水道に雨水を排除できなくなった場合又は放流先の河川の水位上昇等に伴い下水道から河川等に雨水を排除できなくなった場合に浸水が想定される区域を『内水浸水想定区域』といいます。 そのうち、想定最大規模降雨により、浸水が想定される区域を指定、公表する場合は名称が『雨水出水浸水想定区域』となります。
Q2	雨水出水浸水想定区域図と内水浸水想定区域図との違いは？	本質的には同じ内容で、法的な用語（雨水出水）、一般的な用語（内水）という点であり、水防法に基づく雨水出水浸水想定区域図として作成が進められているものです。
Q3	なぜ雨水出水浸水想定区域を指定、公表する必要があるのか？	近年、下水道等の雨水排水施設の能力を上回るような大雨が全国的に増加しており、入間市でも床下浸水や道路冠水といった被害が発生しております。 このような状況を踏まえ、水防法の規定に基づき指定・公表するものです。
Q4	浸水シミュレーションの対象範囲および指定区域を市内全域にしないのはなぜか？	浸水シミュレーションの対象範囲は、公共下水道事業計画区域に加え、公共下水道等以外にも側溝等により排水を行っている区域についても、排水施設の整備が実施される可能性があることから浸水シミュレーションの対象としています。 雨水出水浸水想定区域の指定については、水防法において、排水施設により雨水を排除できなくなった場合等に浸水が想定される区域を指定するものとされています。 排水施設は、公共下水道の雨水管渠のことであることから、公共下水道事業計画区域を指定対象区域としております。
Q5	雨水出水浸水想定区域に指定されていない場所でも浸水が発生する可能性があるとのことだが、具体的にどの地域が浸水する可能性があるか教えてほしい。	雨水出水浸水想定区域図の指定対象区域は公共下水道の排水区域になり、それ以外は指定対象区域とはなりませんが、着色している部分は浸水の発生する可能性がある箇所となります。 ただし、浸水シミュレーション対象範囲外は浸水が発生せず安全であるということではありませんので、ご注意ください。
Q6	浸水継続時間を表示しないのはなぜか？	シミュレーションの結果、区域内には長時間（概ね 24 時間以上）にわたる浸水がないため、浸水継続時間を表示していません。

質問 番号	Q. 質問	A. 回答
Q7	区域の指定とはどのような意味があるのか？ 場所の指定のみかそれとも、危険性が高い意味でのものか？	近年想定を超える浸水被害が多発しており、円滑かつ迅速な避難等のための措置を講じる必要性が高まっています。 このため、洪水への対応と同様に、円滑かつ迅速な避難等のための措置を講じること等が特に必要であることから、これに係る「雨水出水浸水想定区域」を設けるために指定します。
Q8	水防法第 14 条の 2 に規定される想定最大規模降雨とはなにか？	想定最大規模降雨は、入間市では、平成 28 年 8 月 22 日の時間最大雨量 107 ミリメートルをもとに作成したもので、1 時間最大降雨量は 153 ミリメートルになります。 これは 1000 年に 1 度 (0.1%) 発生する確率の雨量です。
Q9	1 時間最大降雨量 153 ミリメートルの雨はどのくらいの雨か？	近年の大雨と比較すると、令和 6 年 8 月 28 日の降雨量で時間 72.5 ミリメートル（気象庁青梅観測所）であったため、約 2 倍程度の雨の強さになります。
Q10	なぜ平成 28 年 8 月 22 日の降雨をもとにしたのか？	入間市の周辺に設置されている雨量観測所で既往最大の 1 時間降水量が観測されている降雨であり、入間市内でも多くの浸水被害実績が確認された降雨であるためです。
Q11	雨水出水浸水想定区域図の地形データはどのように設定しているか？	入間市の地形データは、雨水出水浸水想定区域図作成時点で最新の国土地理院基盤地図情報（測量年次 H21）の数値を使用しています。なお、実際にはブロック塀などにより水がせき止められ浸水が発生するような場所や、落ち葉による雨水桟の詰まり、側溝の土砂堆積などにより、実際の浸水範囲や浸水深が異なる場合もあります。
Q12	川からの越水は考慮しているか？	下水道施設や既存の水路では処理できずに溢れた水を対象とした浸水想定図となりますので、河川の破堤または越水による氾濫は考慮されておりません。 川からの越水は水害ハザードマップが作成されておりますので併せてご確認ください。
Q13	雨水出水浸水想定区域図はなにをもとに作成したのか？	内水浸水想定区域図作成マニュアル（案）（令和 3 年 7 月 国土交通省発行）に基づいて作成しています。
Q14	雨水出水浸水想定区域図の内容に変更があった場合、どうやって確認できるのか？	図の内容に変更があった場合は、入間市の公式ホームページなどで告知する予定です。
Q15	雨水出水浸水想定区域に自分の家が入っているが大丈夫なのか？	宅地地盤が高い場合は、浸水しない可能性もありますが、浸水想定区域に自分の家があるということは、水が集まりやすい区域なので注意が必要です。

質問 番号	Q. 質問	A. 回答
Q16	過去に浸水したことが無い範囲が浸水する想定になっているが、間違っていないか？	想定最大規模降雨は、今まで経験した降雨を上回る降雨であるため、過去に浸水していない場所でも浸水する可能性があります。
Q17	過去の大雨で浸水した箇所が図面上で着色されていないが、間違っていないか？	シミュレーションモデルの作成条件により局所的な浸水が想定されない場合や、落葉や土砂による排水施設の詰まりなどの環境的要因はシミュレーション上で考慮できないため、過去の実績と異なる場合もございます。
Q18	今後、この浸水を解消するための整備の予定はあるのか？	雨水出水浸水想定区域図は、浸水リスクを確認していただくことによって、速やかに避難できるよう活用することを目的としておりますので、今回、設定した想定最大規模降雨に対応する雨水整備の予定はありません。
Q19	浸水深が記載されてるが、どのくらいの深さの浸水が予想されるのか？	図に示されている浸水深は、想定最大規模降雨が発生した場合に予想される浸水の深さです。 浸水深の目安は次のとおりです。 0.5m：1 階床高に相当する浸水深 3.0m：2 階床下に相当する浸水深
Q20	この雨水出水浸水想定区域図に基づいて、具体的にどの地域が浸水する可能性があるのか教えてほしい。	この図は浸水シミュレーション対象範囲内で、想定最大規模降雨が発生した場合に浸水が予想される区域を示しています。赤枠で囲まれた部分が公共下水道等の排水区域で、その内部の着色された部分が今回指定される雨水出水浸水想定区域になります。
Q21	指定区域となった場合、資産価値への影響は生じるのか？	不動産価格の評価を行う際は、不動産鑑定士が、災害発生回数や災害の損失などを勘案し、洪水や地滑りなどの災害発生の危険性を評価することになっております。そのため、不動産の鑑定評価の観点からは、洪水や内水の危険性は既に評価されており、地価の下落要因にはなりません。 平成 11 年 4 月時点、洪水ハザードマップを作成した 443 市町村の 286 地点において、地価の動向調査を行ったところ、ハザードマップの公表の前後で地価の下落につながったという事例は見られませんでした。（国土交通省調べ）